

医学用語あれこれ 9



浜口 恵子

今年の夏は例年になく涼しく、過ごしやすいのですが、それでも少し精神的にだれてしまいます。このコーナーも夏休み(?)と思いましたが、そうは問屋がおろさず、休みなして頑張ることになりました。このところ毎回接頭辞で、内容的にも中だるみの時期のように感じられますが、もう少し頑張りましょう。

dis : 剥ぐ、除く、分離または欠如、反対、

※ b、d、g、l、m、の前ではdi
fの前ではdif

contra: ~に反対の、~に対して

anti: 反、抗、排、~に反対の、~に対して

com : 共に、一緒に(b、m、pの前のみ)

※ 母音およびh、wの前ではco
rの前ではcor、lの前ではcol
それ以外の子音の前ではcon

syn : ~と、共に、一緒に、結合した
癒着

※ b、m、p、ph、psの前ではsym
lの前ではsyl、sの前ではsy

disはラテン語からきた接頭辞です。除く、剥ぐ、欠如を意味しますから、dis/easeは文字通り安楽を剥ぐ、除くで病気となります。infectは感染するという動詞ですが、dis/infectにすると感染を除く、すなわち消毒するという意味になります。dis/infect/ionは消毒です。

contraとantiはほとんど同じ意味ですが、contraはラテン語由来、antiはギリシア語由来と語源が違います。contraは、医学用語では、主としてcontra/cept/ive、contra/indicat/ion、contra/later/al、contra/volition/alの4語に限って使われます。contra/cept/iveは、妊娠を表すラテン語conceptusからきたconcept/iveの

頭のconが落ちてcontraについたもので、意味は妊娠に反すること、妊娠を防止するもの、つまり避妊薬を指します。contra/indicat/ionは、indicat/ion適用、適応、指示に反するので禁忌という意味になります。later/alはlatus側、側面という語からきたもので、contra/later/alで対側のを指します。volition/alは意志(的)の、随意のという形容詞ですが、contra/volition/alで不随意のを表します。

antiはある働きをする薬剤を表現する時によく使われる接頭辞です。syphil/oは梅毒を表しますが、anti/syphil/iticで駆梅薬、駆梅性のになります。lith/oは石、結石を意味する連結形ですが、anti/lith/icとすると抗結石薬、抗結石(性)のを指します。pyret/oは熱、熱病を表す連結形ですが、anti/pyret/icは解熱薬、解熱(作用)の、解熱(性)のという意味になります。

comは~と一緒に、共にを意味するラテン語の前置詞cumからきている接頭辞です。comにラテン語の食卓を表す語mensaをつけてcom/mens/alと形容詞形にすると、共生のという語ができます。sensusはラテン語で感覚、感性を指しますが、con/sensusとすると感覚、感性を共にすること、つまり一致、調和、同意を表します。con/sensu/alは合意上の、同感性の、共感性ののです。

synはギリシア語から派生した接頭辞で、ラテン語のcomに相当します。dactyl/oは手指、時に足指を意味する連結形ですが、syn/dactyl/yで合指症となります。blephar/onは眼瞼を指す名詞で、sym/blephar/onは眼瞼が眼球へ癒着した状態、瞼球癒着症を意味します。syn/drom/eは共に走ること、すなわち一緒に起こっている多様の症候を指すことから症候群を表します。syn/chondr/osisは軟骨結合、syn/ost/osisは骨結合、骨癒合症です。では、また次回に。

はまぐち けいこ : 高槻赤十字病院図書室